

雨の影響を考慮した農作業計画の策定を応援します！

【1 成果の概要】

- 農作業計画を策定する場合に利用できる作業可能日数率（雨に影響されないで作業できる日数の割合）を算出できます。
- 作業可能日数率は県内のアメダス観測地点ごと、作業の種類ごとに表示することができます。
- 支援シートに新たな降水量データを追加すると最新の作業可能日数率が得られます。
- 地域によって雨の降り方に特徴が見られます。

【2 簡単に算出・表示できます】

- 1 農作業計画を策定する場合に、雨の影響でどの位影響されるかを知る方法として、どの時期にどの位の雨が降るかを過去30年の降水量から想定し、半旬別の作業可能日数率として算出します。
- 2 算出にはパソコン用表計算ソフトMS-Excel用のシートを用い、画面上で設定や、結果の表示ができます（表1）。
- 3 算出できるのは県内の主なアメダス観測地点で、水稲、麦、大豆の主な作業について算出できます。
- 4 新たな降水量データは随時自分で追加できます。
- 5 県内の作業可能日数率は、5つの型に分類できます。図1)

表1 作業可能日数率の一例
(水稲収穫の場合)

月	半旬	作業可能日数率%	
		軽米	湯田
9	1	64.7	66.0
	2	53.3	54.8
	3	58.6	48.0
	4	48.6	60.7
	5	70.0	58.6
	6	76.0	69.3
10	1	74.2	53.3
	2	70.0	55.3
	3	82.0	59.9
	4	89.3	66.6
	5	80.6	50.0
	6	82.4	49.2

【3 使うときの留意点】

- 1 アメダス観測地点以外の地域では、最寄りの地点の数値を参考にしてください。
- 2 作業可能日数率の傾向は数年間は大きな変化は無いので、降水量データの更新は、毎年行なってもそのまま利用可能です。
- 3 支援シートは、各農業改良普及センターに配布いたしますので、詳しくは最寄りの農業改良普及センターにお問い合わせ下さい。

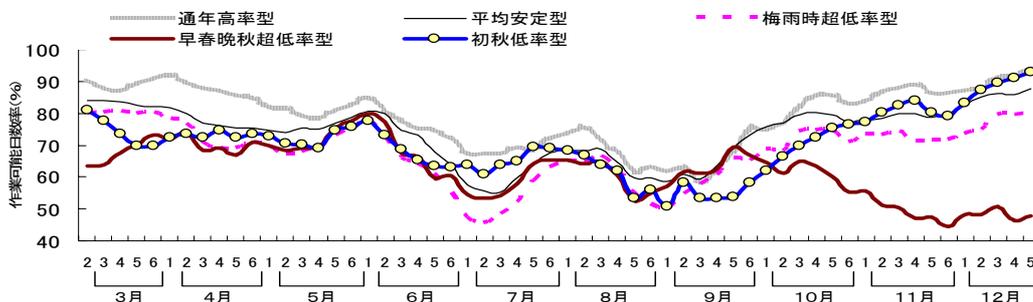


図1 時期別作業可能日数のパターン例
(作業限界降水量：当日5mm、前日20mm、前々日30mm)